

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

(別紙4)

[認知症対応型共同生活介護用]

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年9月17日

## 【評価実施概要】

事業所番号	870102654		
法人名	有限会社 トゥルーケアステージ		
事業所名	グループホーム ばなな		
所在地	水戸市河和田町4433-40 (電話)		
評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	水戸市千波町1918 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成20年3月14日	評価確定日	平成20年9月17日

【情報提供票より】(平成20年2月22日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成14年2月1日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27人
職員数	20人	常勤	17人, 非常勤 3人, 常勤加算 13.3人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	3階建ての 1 ~ 3階部分		

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000円)	有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
または1日当たり 円 月 40,000 円			

### (4) 利用者の概要(平成20年2月22日現在)

利用者人数	26名	男性	6名	女性	20名
要介護1	8	要介護2	6		
要介護3	7	要介護4	5		
要介護5	0	要支援2	0		
年齢	平均 84歳	最低	66歳	最高	96歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人鳳香会 東前病院
---------	--------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームの基本理念である認知症によって自立生活が困難になった利用者に対して、家庭的な環境のもとで個々の生活歴や人生観を尊重し、日常生活の介助を通して安心と尊厳のある生活を営むことができるよう支援している。
---

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 初回の受審のため該当なし。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者や職員は自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し話し合っているが活用するまでには至っていないので、評価で得られた気づきなどを活かし具体的なサービスの質の向上に取り組むことを期待する。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議で出された課題について全員で話し合いサービスの向上に活かしている。 運営上不明な点は市の担当者と連絡を密にしている。 特に連絡を要する利用者について状況の報告や相談をし連携を図っている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 月に1度ホーム便りで生活状況報告を行うとともに体調に変化があった場合はその都度報告をしている。 金銭報告は請求時に出納帳と領収証を家族に送付している。 意見箱が設置されているが活用されていないので、無記名による家族アンケートなどを実施するとともに、家族会の復活が望まれる。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) ボランティアの受け入れやホーム便りを発行するとともに、町内会に入会して地域との交流に努めているが、ホームのホールを地域の方々に開放したり、ボランティアなどによる勉強会を開くなど、気軽に訪問してもらえる環境づくりが望まれる。

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくホームとして、2ヶ月ごとに運営推進会議を開催し話し合いを行っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を掲げているが管理者及び職員が共通理解するまでには至っていない。	○	簡潔でわかりやすい理念を検討することが望まれる。
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ボランティアの受け入れやホーム便りを発行するとともに、町内会に入会して地域との交流に努めている。	○	ホームのホールを地域の方々に開放したり、ボランティアなどによる勉強会を開くなど、気軽に訪問してもらえる環境づくりが望まれる。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者や職員は自己評価及び外部評価の意義を理解しているが活用するまでには至っていない。	○	評価で得られた気づきなどを活かし、具体的なサービスの質の向上に取り組むことを期待する。

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の結果を職員に示し、出された課題について全員で話し合いサービスの向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営上の不明な点は市担当者と連絡を密にしている。 特に連絡を要する利用者についてその状況の報告や相談するなど連携を図っている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に1度ホーム便りで生活状況報告を行うとともに、体調に変化があった場合はその都度電話で報告している。 金銭報告は請求時に出納帳と領収証を家族に送付している。	○	金銭管理については確認印をもらうことが望まれる。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱が設置されているが活用されていない。 また家族会は休止状態である。	○	家族会の復活、無記名による家族アンケートなどを実施し、家族等の意見を聴取することが望まれる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動による混乱や不安を最小限に抑えるよう努力している。 他のユニットに異動になってもお互いに行き来することによって利用者のダメージを軽減している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経歴や力量に応じ、研修や勉強会を実施している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福利厚生として職員会をつくり、合同の勉強会や食事会も準備しているが、地域の同業者や他事業所の職員と交流するまでには至っていない。	○	他事業所や地域の同業者との交流を図るとともに、研修会や研究会に参加し情報の交換を行うことにより、交流の促進を図ることが望まれる。
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前にどのようなサービスを提供していくか説明し、同意を得るようにしている。 また、体験利用やショートステイができる体制がある。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ともに過ごす中で利用者の人生経験から学び、介護に必要な事柄を導き出して手を出しすぎずさりげないケアを行っている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の希望を傾聴し、在宅での生活環境を考慮して、安心してホームで生活ができるよう配慮している。 利用者の意向の表出が困難な方は家族から情報を得て、利用者を深く観察し好まれる環境に近づけるよう努力している。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	職員はカンファレンスを定期的に行き、介護計画作成後も日々の状態を細かくチェックして話し合い、次回のカンファレンスまでにそれぞれのアイデアを介護計画に反映している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的に見直しを行っているが日常生活の変化、病状の変化に伴い対応している。 また、家族に同意を得て介護計画の見直しを行っている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	系列の事業所や協力病院を優先的に利用し、利用者や家族の要望に応じて柔軟に支援している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院のほかに利用者や家族の希望により、かかりつけ医などに受診できるよう支援している。 多くの利用者が2週間に1度定期健診を受けている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	できる限りホームで対応できるよう配慮し、家族と相談しながら病院と連携をとっているが十分な体制づくりまでには至っていない。	○	法人及びホームとしての方針を決め、家族の意見を参考にしてマニュアルを作成し、できることとできないことを明確にすることが望まれる。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の尊厳を尊重しプライバシーを侵害しないよう言動・行動に注意している。 記録等は使用後スタッフルームの棚にしまっている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望にそってその人らしく暮らせるよう一人ひとりのペースに合わせた支援をしている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者が食べたい物を個別に調理し、食べ易い大きさなどにも配慮している。 職員も一緒に食事をして見守り、後片付けなども一緒に行っている。	○	職員の見守りは見受けられるが食べられない人への配慮、言葉かけが少ないので楽しい雰囲気づくりが望まれる。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の意向に合わせた曜日・時間に入浴できるよう配慮している。 入浴を好まない人には職員が入りたくなるよう、誘導の声かけをしている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者のできることや興味があることに対し積極的に関わる機会を設け、生活に楽しみや役割をもてるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	暖かい日は近所への散歩やドライブ、外気浴など外に出る機会が多くなるよう支援している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施錠の有無も含め行動を制限することのないよう、職員が周知徹底し取り組んでいる。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急連絡網を作成し、地域の人々の協力を得る体制になっているが十分とはいえない。	○	車椅子の人や歩行が不自由な人の避難方法を確立することが望まれる。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	業者による食材で調理し、管理栄養士に献立を委託している。 利用者の状況により好みに応じて調理方法などを調整している。 食事、水分の摂取はその都度記録し状況を把握している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じられるよう季節の花をフローア ーや壁、ホールに飾って環境づくりに努めている。 また、異臭が気にならないように汚物は新聞紙に包み廃棄している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	畳・ベット・布団などは、利用者の好みに合わせ今まで使い慣れた物や親しみのある道具を自由に持ち込んでもらっている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。